

令和7年度青梅市親子ふれあい事業ポッチャ大会実施規則

- 1 本大会では、ポッチャのチーム戦のみ行う。
- 2 コートサイズはバドミントンコートを使用した特設コートとする。
- 3 1チーム3名編成とし、選手登録は6名まで可とする。競技補助者は1チームに1名配置することができるが、選手登録はできない。
- 4 急用・体調不良等により選手が揃わない場合2名による試合を認める（この場合6球のうち1人が3球ずつ投球する）。ただし、各ブロックの1位になっても決勝トーナメントには進めない。
- 5 予選リーグは1ゲーム2エンド制、決勝トーナメントは1ゲーム4エンド制とし、全エンド終了時に合計得点の高いチームが勝者となる。
予選リーグは勝数が多いチームを上位とし、勝数が同数の場合は得失点差で順位を決する。決勝トーナメントは第3エンド終了時に7点以上の差がある場合、勝敗が決する（以後のエンドは行わない）。合計点が同点の場合は特設ルールによるタイブレイク（以下「特設タイブレイク」という。）を行い、勝敗を決する。
- 6 1エンドの持ち時間は定めないが、スムーズな進行に協力すること。
- 7 第1エンドの先攻（赤ボール）・後攻（青ボール）は、代表者のジャンケンで勝ったチームが選ぶ権利を得る。
- 8 エンドの始めは、先攻（赤）チームの第一投球者がジャックボール（以下「ジャック」という。）を投球する。ジャックが無効ゾーンに止まるかコート外に出た場合は後攻（青）チームにジャック投球の権利が移る。以降ジャックが有効となるまで同様とする。試合中、ジャックがコート外に出た場合は、ジャックはターゲットボックス中央に置きなおす。
- 9 1エンド終了ごとに、先攻・後攻を交代する。
- 10 選手交代は1エンドごとに認める。
- 11 特設タイブレイクは、ジャックをターゲットボックス中央に置き、各チーム代表1人が1回ずつ投げて、最もジャックに近づけたチームの勝利とする。投球するボックスおよびボールの色は、最終エンドのまま変更せず行う（ボックスは中央3番4番を使用）が、投球順は最終投球者のチームを先攻とする。ジャックとの距離を計測し、ボールがそれぞれ同距離の場合は、投球順を変えずに、勝敗が決するまで特設タイブレイクを行う。なお、タイブレイクはゲームの勝敗をつけるものであり、合計点に加算しない。

- 12 試合前練習投球は1人2球まで、ただし初対戦のみとする。
- 13 手袋・グローブは着用不可とする。使用しなければならない場合は、大会申請時に事務局に知らせること。
- 14 その他の規則は日本ボッチャ協会競技規則を適用する。
- 15 試合中は必ず審判の指示に従うこと。

以 上